



# あかね

Vol.16

令和1年8月発行  
独立行政法人国立病院機構  
東近江総合医療センター  
広報委員会

7月から当院は敷地内全面禁煙になりました。

## 顔面けいれんとボトックスのお話

神経内科 前田 憲吾

皆さんの中には、目がピクピクしたことのある方もおられるかと思います。「疲れ目」や睡眠不足が原因であることが最も多いのですが、ピクツキが顔の片側だけで、ひどい時には目を開けていられないような場合は原因が別にあります。顔の筋肉を動かす顔面神経が、頭蓋内で血管や腫瘍と接触しているのが原因です。腫瘍の場合は手術が第一選択の治療方法になります。血管が原因の場合、神経と血管を離す手術をすることもあります。やはり手術ですので、合併症のリスクがあることは避けられません。手術は怖い、受けたくないという方や高齢であるため手術ができない方にはボトックスという注射薬があります。けいれんする筋肉に少量のボツリヌス毒素を注射し、いわば人為的に軽い麻痺を作ることによりけいれんの程度を軽減します。目の周りであれば1回につき4～5か所の注射をします。頬や口の周りにも注射することがあります。注射には最も細い針を使います。薬の効果は注射後1週間くらいから現れ、4か月程度持続します。入院の必要はありません。美容整形での「しわ取り」にも使われる薬剤ですが、顔面けいれんは健康保険が適用されます。当院では神経内科が担当しています。お困りの方がいらっしゃればご相談下さい。

飲み薬はないのかとも尋ねられることがしばしばあります。ボトックスが使えるようになるまでは、抗てんかん薬等を使用しましたが、眠気ができるだけでほとんど効果が出ないため今ではまず使いません。



注射する所（目の周りのピクツキが強い場合）